

魔法の丘で 会いましょう！

江戸川区角野栄子児童文学館が
2023年オープン予定！



Vol.2

なぎさ公園にできる
「角野栄子児童文学館」って
おもしろい形なんだって
どんな建物だろう！

絵：くぼしまりお
文：葛山あかね

それはね…… 詳しくは次のページで



花びら、それともチョウ、鳥……
あなたには何に見える？

表現したいと思いました」
文学館やミュージアムというと、どこか抽象的で箱っぽいデザインになりがちですが、隈さんが設計したのは、そうした一般的なモダニズム建築とは一線を画す「おうちのエッセンスを抽出した新しいタイプの建築」です。
その最たる特徴の一つは屋根。それも普通の三角屋根ではなく、何枚もの屋根を広げるように設置した「フラワールーフ（イメージ図上）」です。「その名の通り花びらのように見えたり、チョウが羽を広げて飛ぶ姿に見えるかもしれません。単なる四角い箱にはない、動き出しそうな気配みいたいなものを感じてワクワクしてほしい」
また環境との関係性を重んじる隈さんにとって、小高い丘の傾斜を利用しながらの設計にも大きな意味があるといえます。
「公園の丘を子どもたちが元気に走り回る姿を想像して、その楽しいリズムを建物の中にもつなげたいと思ったんです。入り口で一度立ち止まるのではなく、走り回るリズムのまま中に入り、駆け巡ることができるよう。大階段（イメージ図下）はまさに丘の一部ですね。
こうした施設は閉鎖的の中に閉じこもって本を読むようなところが多いけど、ここはもっとオープンでいい。階段に座って本を読むもよし、天気の良い日には外に出て庭に寝転びながら読んでもいいじゃないですか。外の自然も含めすべてが角野栄子児童文学館。子どもたちが一日中遊び回ることのできる建築であることを目指しています」



江戸川区に
新名所・
魔法の空間が
誕生します！



左から、隈研吾さん、角野栄子さん、斉藤猛区長

『魔女の宅急便』でおなじみの作家・角野栄子さんの児童文学館が、南葛西の「なぎさ公園」に誕生します。幼少期から大人になるまで江戸川区で暮らした角野さん。思い出のいっぱい詰まった地に、子どもはもちろん、大人まで楽しめる魔法の空間が広がります。設計は世界的に活躍する建築家の隈研吾さん。さてどんな魔法がかかるのでしょうか。隈さんのインタビューとともに少しだけお見せします。

角野 栄子(かどの えいこ)

1935年東京生まれ。大学卒業後、出版社勤務を経て24歳からブラジルに2年滞在。その体験を元にした『ルイジニョ少年 ブラジルをたずねて』で、1970年作家デビュー。代表作『魔女の宅急便』は1989年ジブリ作品としてアニメーション映画化された。野間児童文芸賞、小学館文学賞等受賞多数。紫綬褒章、旭日小綬章を受章。2016年『トンネルの森 1945』で産経児童出版文化賞ニッポン放送賞、2018年3月には児童文学の「小さなノーベル賞」と言われる国際アンデルセン賞作家賞を、日本人3人目として受賞。翌年、江戸川区区民栄誉賞を受賞。

設計をしたのは、世界的に有名な隈研吾さん
どんな建物にしたかったのか、聞いてみたよ



抽象的な箱型ではなく
人間的な柔らかさを感じる
「おうち」っぽい建築に

角野栄子児童文学館の設計を担当したのは、隈研吾さん。東京2020大会のメインスタジアム・国立競技場を手がけるなど、世界中で活躍する建築家です。
「もともと僕は角野さんが生み出す物語の大ファン。とくに『魔女の宅急便』の主人公、キキが好きで、可愛いだけでなく自分の道を切りひらく芯の強さに惹かれます。角野さんの作品には人間が本来もっている心のコアの部分が描かれていると思うんです。決してファンシーではない人間的な柔らかさや奥深さが物語の根底にある。角野さんのそうした豊かな世界観を

隈さん一押しの見どころは
丘の斜面を利用した
コリコの町の大階段！



隈 研吾(くま けんご)

建築家。1954年生。1990年、隈研吾建築都市設計事務所設立。慶應義塾大学教授、東京大学教授を経て、現在、東京大学特別教授・名誉教授。30を超える国々でプロジェクトが進行中。自然と技術と人間の新しい関係を切り開く建築を提案。主な著書に『点・線・面』（岩波書店）、『ひとの住処』（新潮新書）、『負ける建築』（岩波書店）、『自然な建築』、『小さな建築』（岩波新書）、他多数。



撮影：佐山順丸

こんな本棚が
あったらいいな
円形本棚は子どもたちの
秘密基地!?



建物の内装イメージを考えた
くぼしまりおさん
アートディレクターって
どんなことをやったの?



日常生活ではあり得ない
いちご色の世界も
角野さんと
くぼしまさんが考案



くぼしまりお

作家・イラストレーター。1966年生まれ、2001年『ブンダバー』でデビュー。翻訳家としても活躍する傍ら、角野さんの毎日のお洋服を考える専属スタイリストでもある。

「ここにきて感じてほしいのは、こうあるべきという決まりごとは何もないということ。人と同じである必要なんてないし、こうじゃなきゃいけないという縛りもない。子どもたちが自分らしく自由に発想していいんだと思う、その一つのきっかけにこの場所がなったなら、本当に嬉しいですね」

「本棚の小径こみちがあったらいいわね」「コロコの町がいちご色なら」……角野さんが思い描く物事を一つ一つイラストにしなげら、児童文学館のイメージを一緒に作り上げていったといいます。

可愛らしい形の円形本棚(イラスト左上)はその一例。ほかにも中に入って座ることのできる猫型のオブジェや、形や大きさの異なる不揃いな家型の本棚など、現実にはない空想の世界が館内に広がる予定です。くぼしまさんは言います。

角野栄子児童文学館の内装イメージの構築に一役買っているのは、くぼしまりおさんです。角野さんとともに圧倒的ないちご色の世界を生み出したアートディレクターであり、実は『魔女の宅急便』執筆のヒントとなる魔女のイラストを描いたのもくぼしまさん。現在、作家、イラストレーター、翻訳家としても活躍中です。

角野さんの頭の中の イメージを絵にして

ACCESS DATA

総合レクリエーション公園(なぎさ公園)
所在地:江戸川区南葛西7-3-1
アクセス:東京メトロ東西線「葛西駅」からバス10分
(バス停「なぎさニュータウン」下車後 徒歩5分)

今後の情報は こちらから

江戸川区角野栄子児童文学館ホームページ
<https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e081/kuseijoho/keikaku/bungakukan/index.html>
公式Instagram【公式】江戸川区角野栄子児童文学館
https://www.instagram.com/edogawacity_kadonoieiko/
KADOKAWA文芸WEBマガジン「カドボン」
<https://kadobun.jp/special/kadonoieiko/>